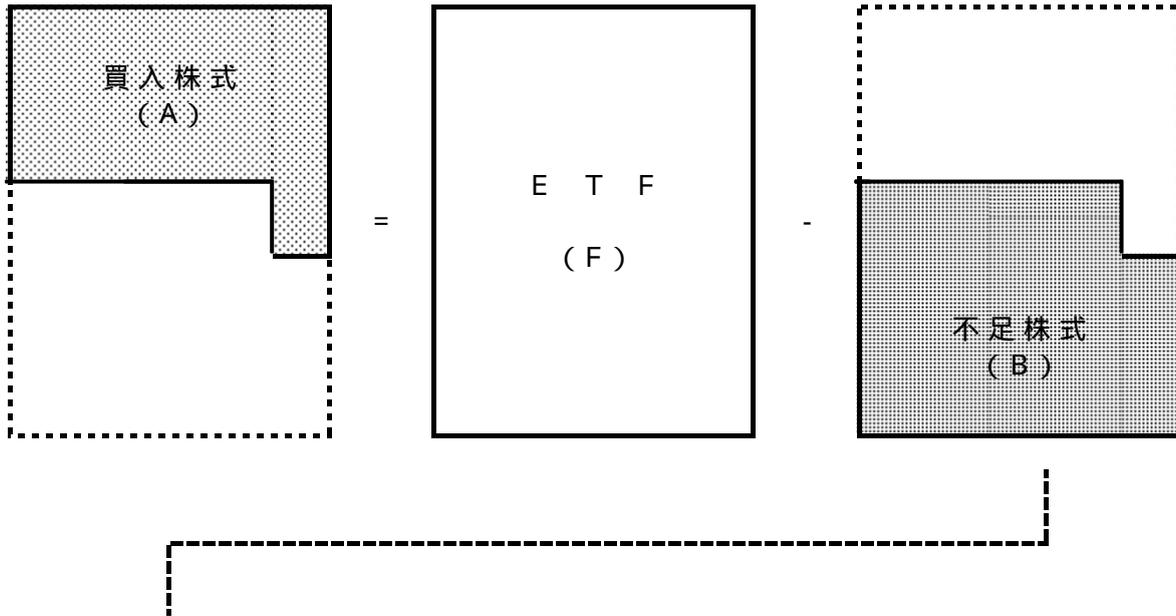


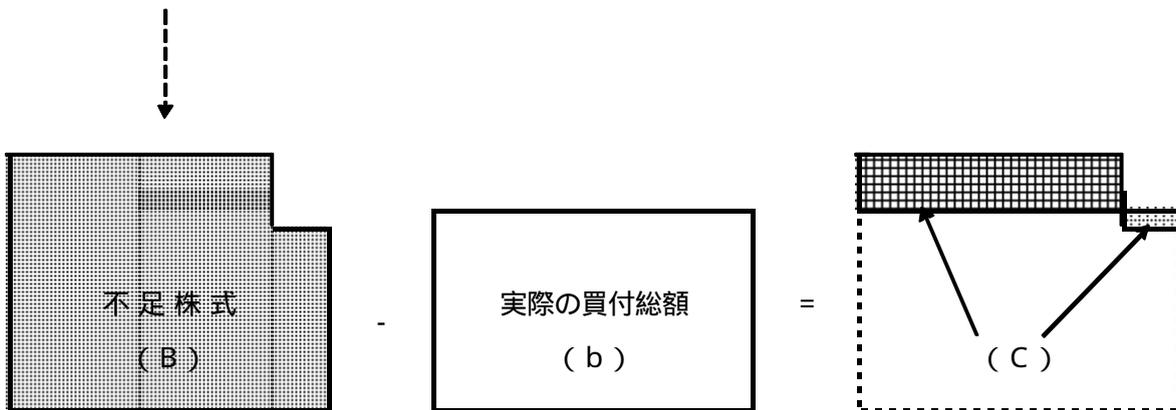
## 本件ETFの総額と買入株式に係る支払金額との関係

「買入株式」に係る支払金額 (A) = ETFの総額 (F) - 「不足株式」の総額 (B)



当該不足株式 (B) については、全銘柄を複数のグループに分け、それぞれのグループごとの特定の日における東証の各銘柄の終値により、その総額を計算する旨、定められていた。

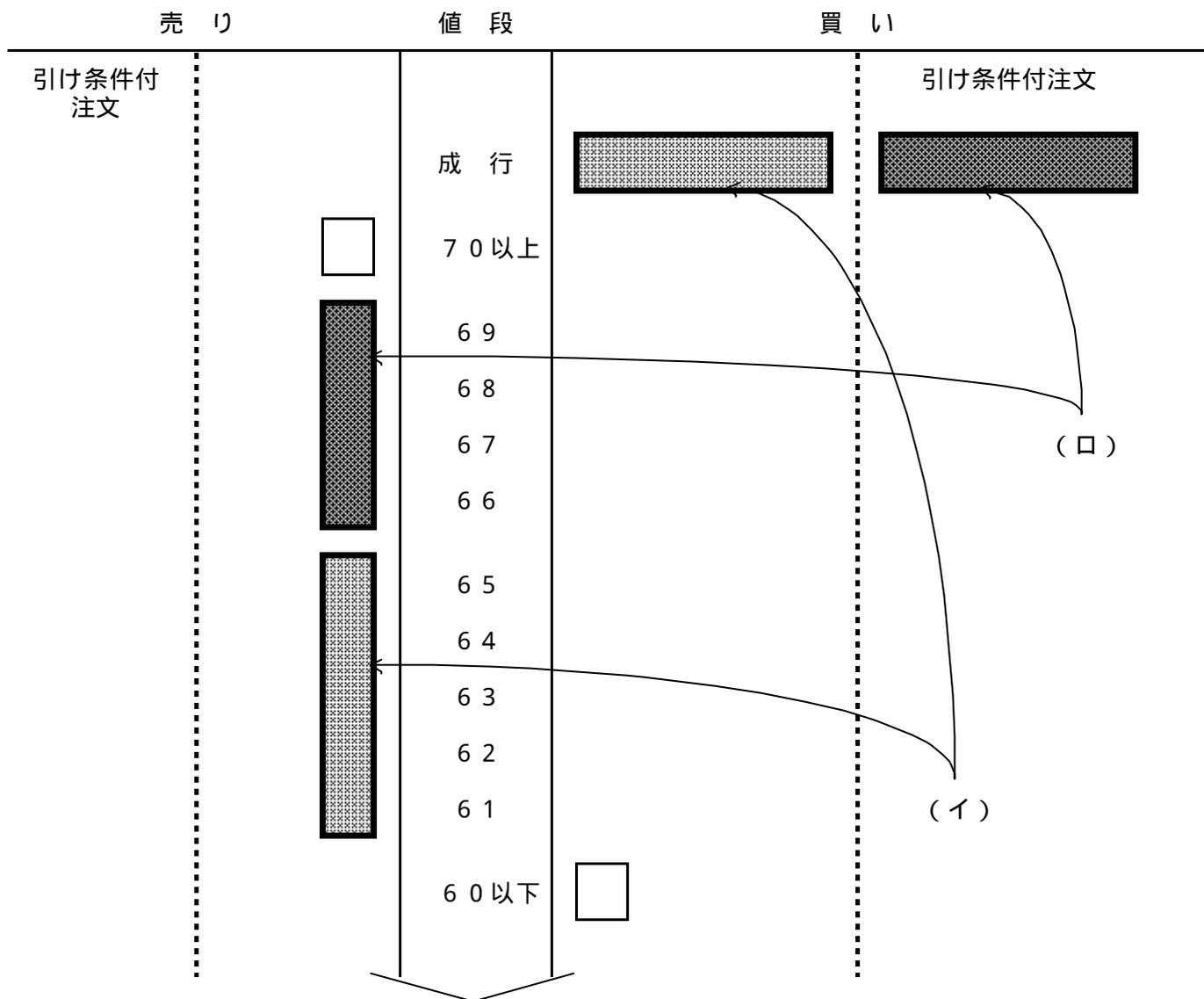
この場合、(B) が実際の不足株式に係る買付総額 (b) より大きければ当社にとって利益となる。



終値で算出した総額 (B) - 実際の買付総額 (b) = 当社の損益 (C)

作為的相場の形成状況（事例）

(1)の銘柄について



(注) 「引け条件付注文」とは、大引け時のみ有効となる注文である。

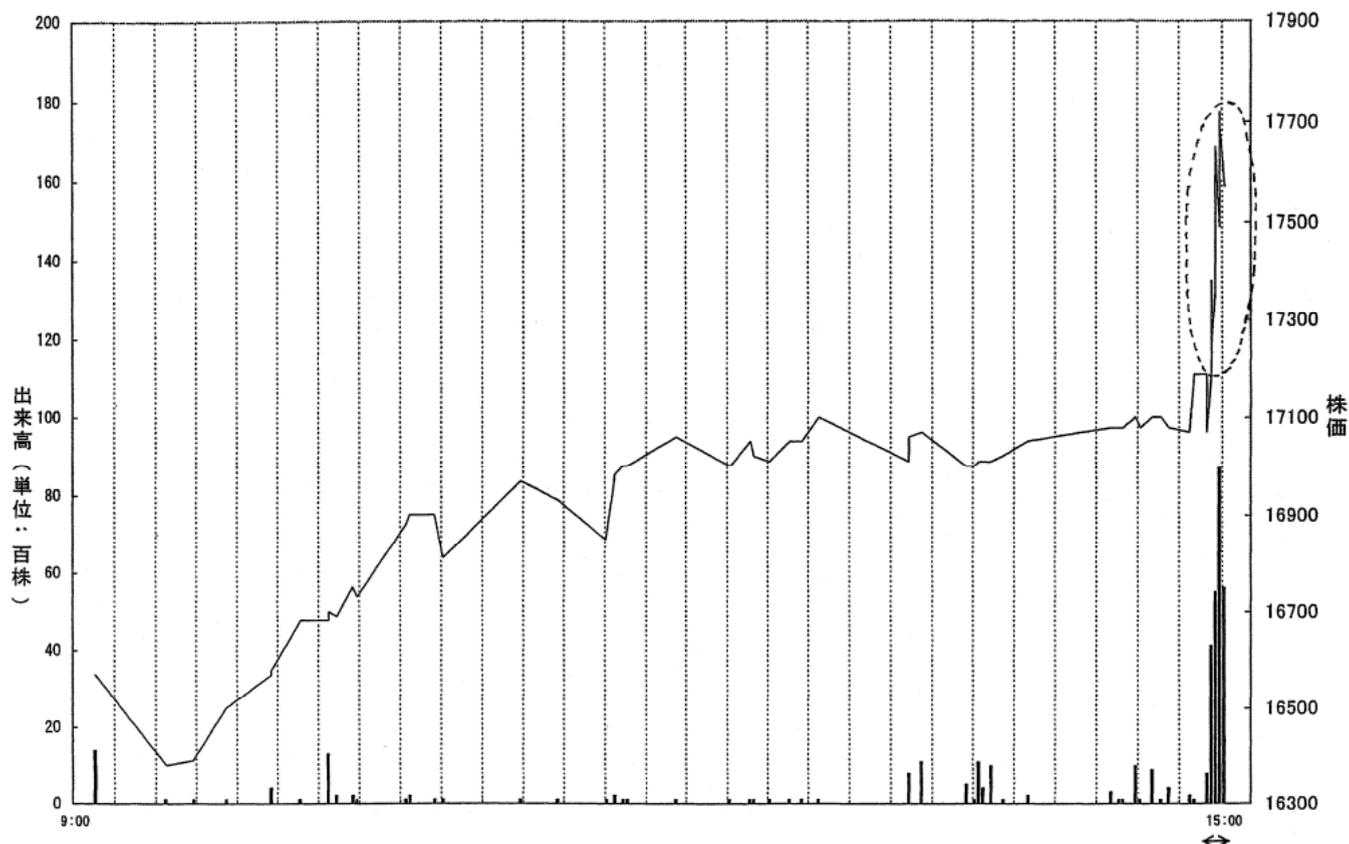
【取引経過】

当該銘柄が14：59に60円で約定した後、大引け前の1分間に、平均出来高比約 224%の数量の成行及び引け条件付成行の買付注文を発注した。

(イ)の成行注文により、ザラバ中に株価が65円まで上昇し、大引けを迎えた。

大引けで、当該引け条件付成行の買付注文(ロ)と69円までの売付注文が対当し、69円で引けた(引け1分間で株価が15%上昇)。なお、14：59以降の当支店の関与率は100%であり、翌日の始値は62円に下落している。

## (2)の銘柄について



### 【取引経過】

当該マネージングディレクターの部下が、海外関係会社の口座を使用して、14:56頃から大引けにかけて約30秒間隔で7回にわたり各500株の成行の買付注文を東証で発注し、当該成行注文は、その都度、全て約定した。

当該マネージングディレクター自身も、東証で、当該成行注文に並行して、14:57頃から14:59頃にかけて、大証の直近の約定値に1%を上乗せした価格で1千~2万株のまとまった数量の指値買付注文を8回にわたり連続して発注し約定させた。

更に、大引け間際には、大証の直近の約定値の上乗せ率を2%、3%と引き上げた価格で指値買付注文を2回発注し終値を引き上げた。その結果、東証の終値は、14:56から大引けにかけて、17,190円から17,570円まで上昇した。

当該マネージングディレクターは、当該銘柄の必要買付株数全量を買付けよう別のトレーダーに指示していたにもかかわらず、当該トレーダーと、及びの買付けについて打ち合わせることなく買付けを行った。

すなわち、超過買付け(いわゆるオーバーヘッジ)の発生を前提とした買付けとなっており、また実際に当該銘柄は超過買付けとなり、及びで買付けた株数の半分近くを翌日売却した。